

## 2 自治体等が保有しているデータの民間活用について

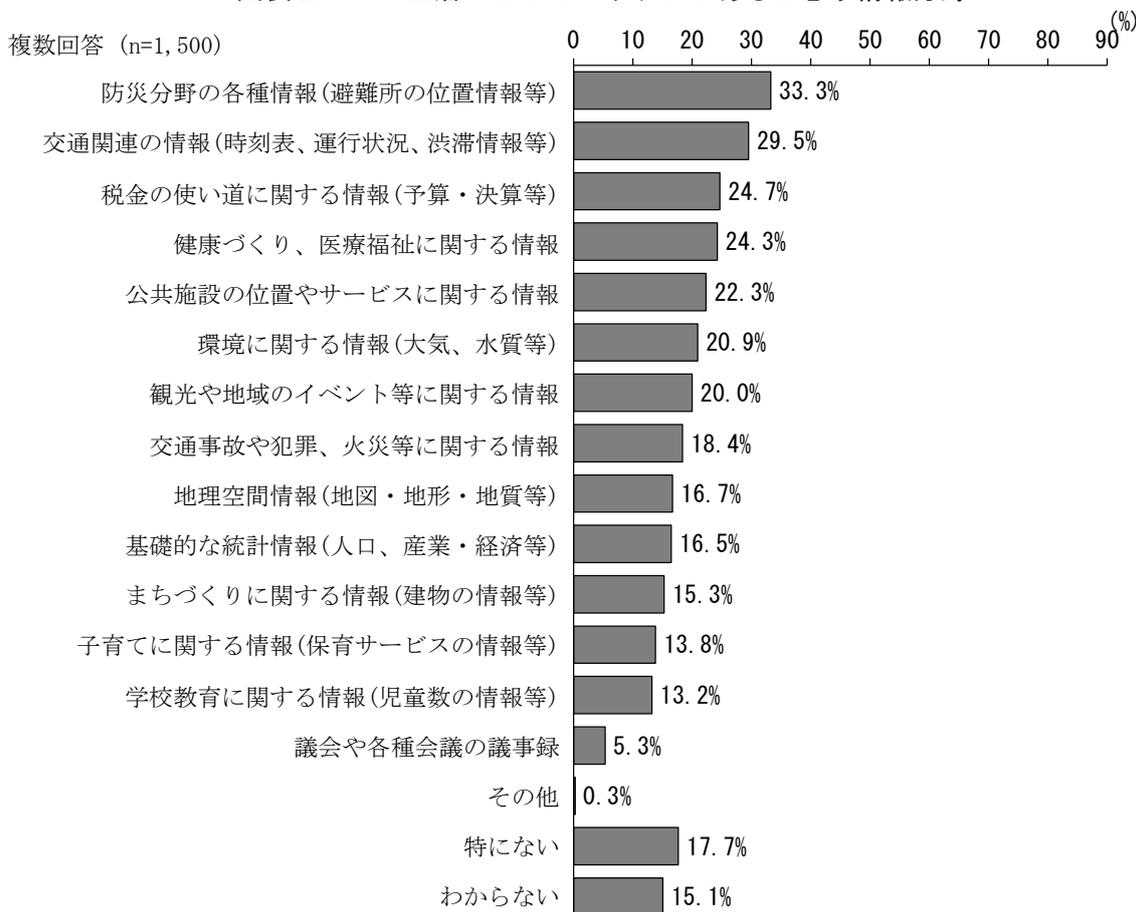
### 2-1 生活にとってメリットがあると思う情報分野

◎「防災分野の各種情報」が33.3%

スマートフォンの音声認識機能などに用いられているAI(人工知能)や、家電製品など様々なものがインターネットにつながるIoT等の関連技術の開発・活用が促進される中、平成28年12月に「官民データ活用推進基本法」が施行され、こうした技術を用いて、自治体や民間が保有しているデータを大学などの研究機関や企業などが活用し、日々の生活をより便利にしたり、急速な少子高齢化の進展に伴い発生する様々な課題を解決したりしていくことが求められています。このような背景をもとに、次の問8と問9にお答えください。

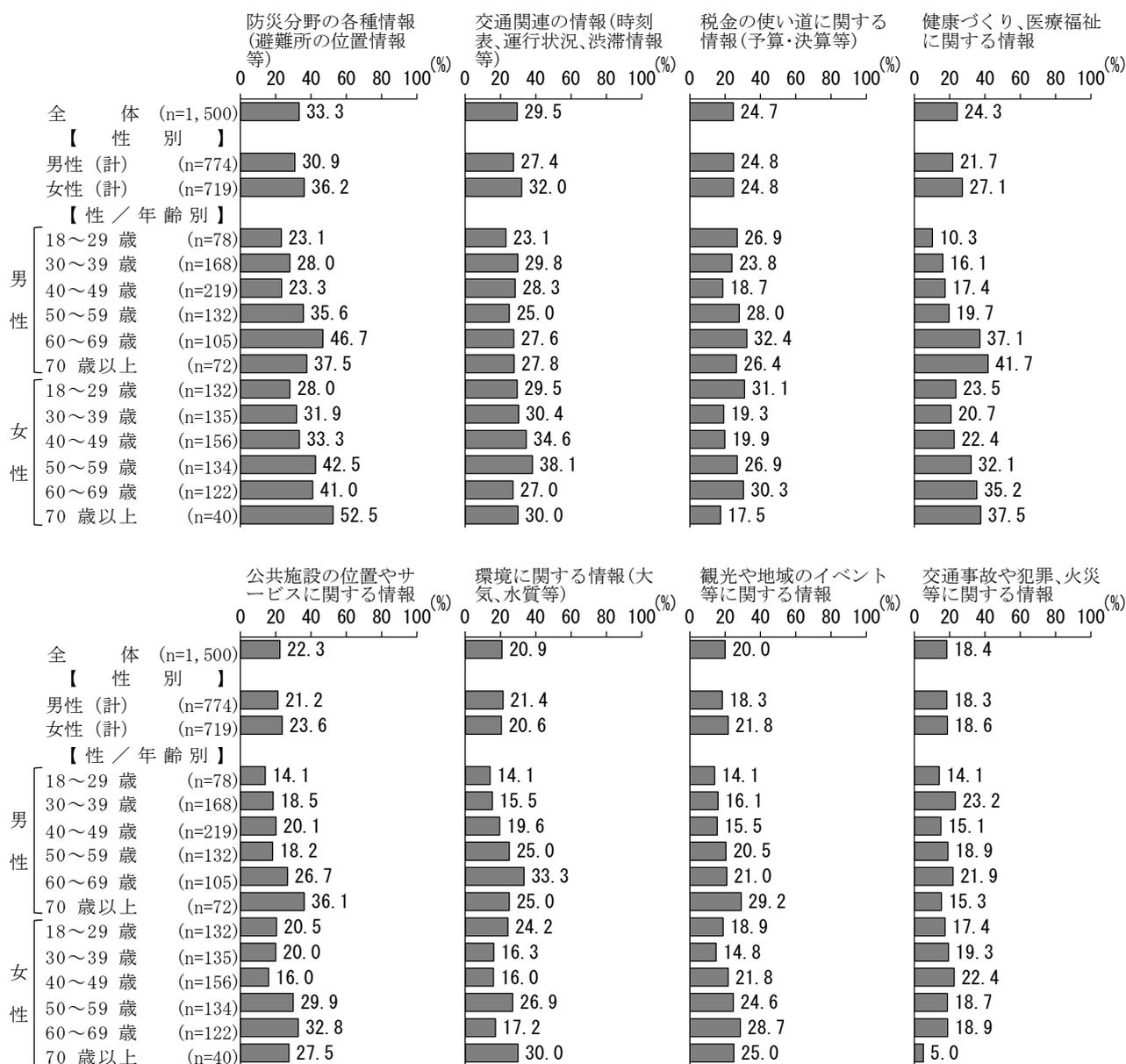
問8. 大学をはじめとした研究機関や企業等が利活用することで、利便性や効率性、安全性が高まるなど、あなたの生活にとってメリットがあると思う分野の自治体等保有の情報を選んでください。(いくつでも)

図表2-1 生活にとってメリットがあると思う情報分野



「防災分野の各種情報(避難所の位置情報等)」(33.3%)が最も高く、次いで、「交通関連の情報(時刻表、運行状況、渋滞情報等)」(29.5%)、「税金の使い道に関する情報(予算・決算等)」(24.7%)、「健康づくり、医療福祉に関する情報」(24.3%)の順であった。

図表2-2 生活にとってメリットがあると思う情報分野（性／年齢別 上位8項目）



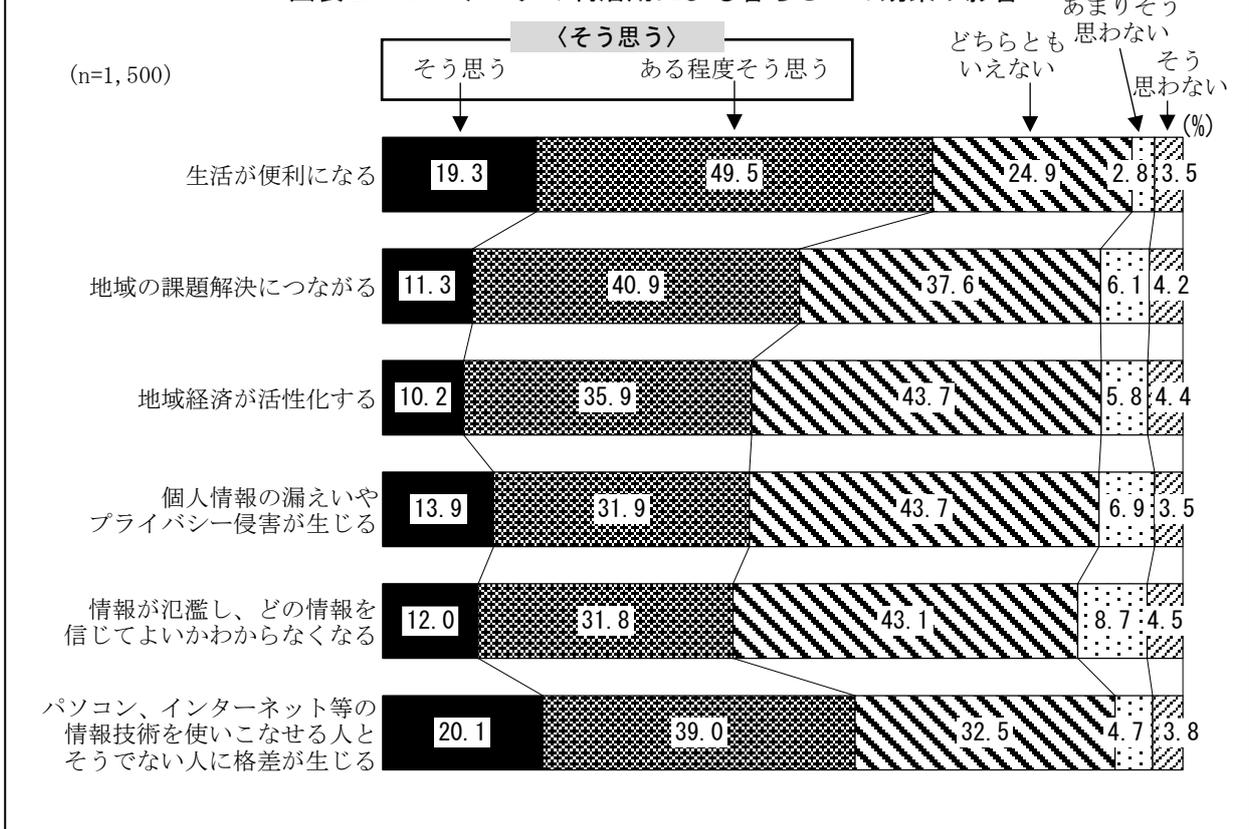
生活にとってメリットがあると思う情報分野について、性／年齢別にみると、「防災分野の各種情報」では男性の60～69歳、女性の50歳以上の年代で4割を超え、男性の50～59歳と女性の30～39歳でも3割を超えており、これらの年代において、全体の項目の中での割合が最も高くなっている。その他の年代について、「生活にとってメリットがあると思う」割合が最も高かった情報分野を見てみると、男性の30～39歳と男女の40～49歳では「交通関連の情報」が、男女の18～29歳では「税金の使い道に関する情報」が、そして、男性の70歳以上では「健康づくり、医療福祉に関する情報」が最も高くなっている。

## 2-2 データの利活用による暮らしへの効果や影響

◎「生活が便利になる」について、〈そう思う〉が68.7%

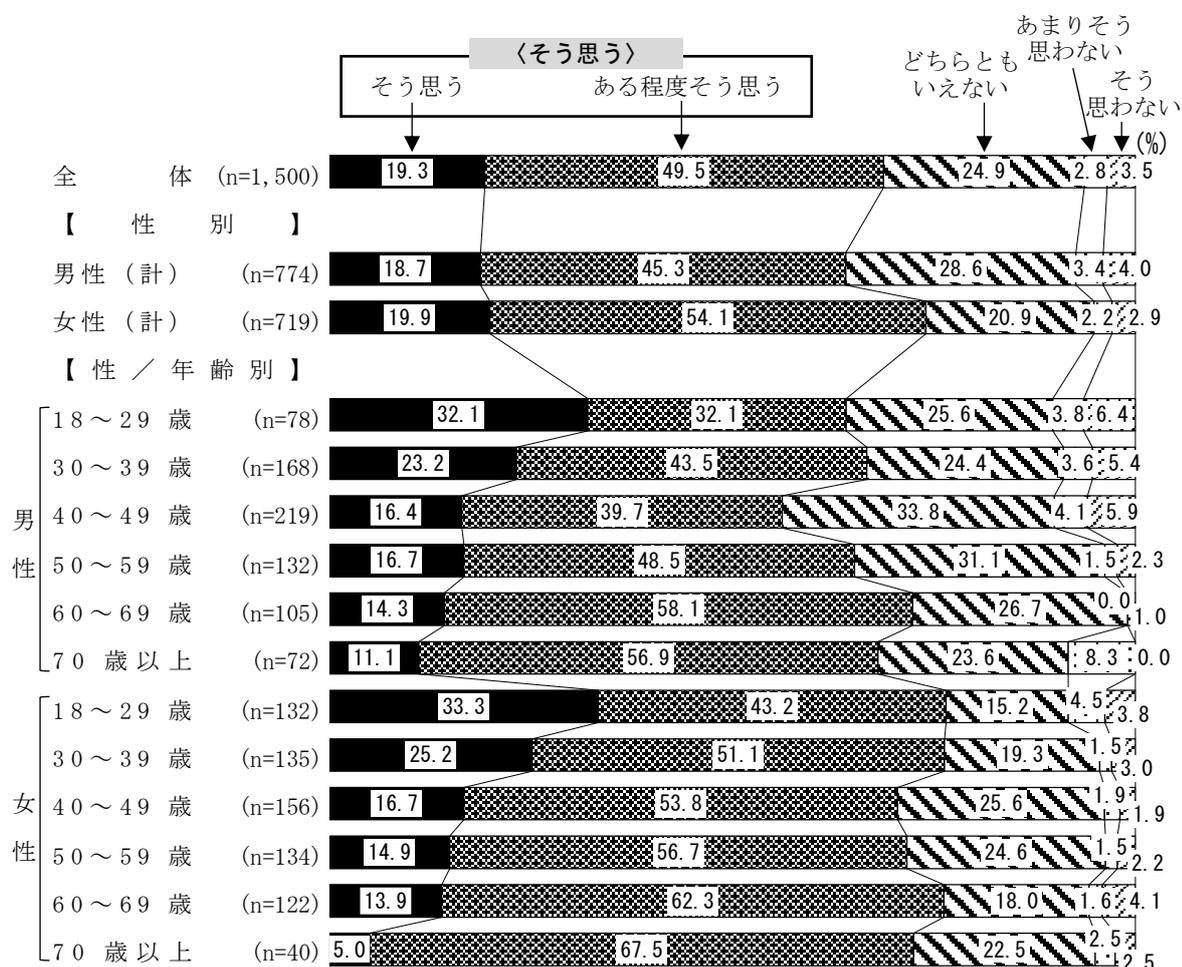
問9. データの利活用が進んでいくことで、あなたの暮らしにどのような効果や影響があると思いますか。以下のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(ヨコに1つずつ)

図表2-3 データの利活用による暮らしへの効果や影響



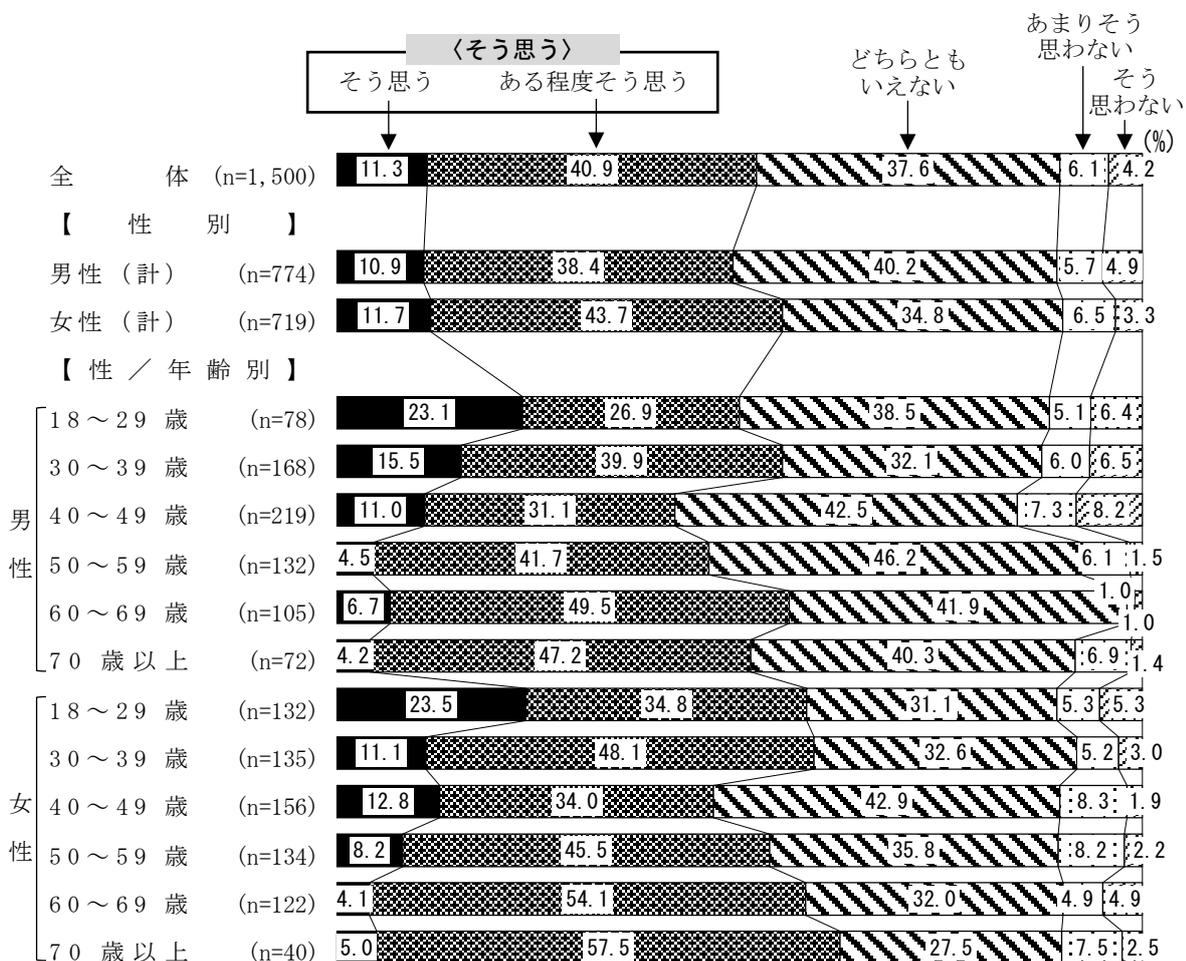
データの利活用が進んでいくことで、暮らしにどのような効果や影響があるか聞いたところ、「生活が便利になる」について、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した〈そう思う〉が68.7%となっている。一方で、「パソコン、インターネット等の情報技術を使いこなせる人とそうでない人に格差が生じる」については、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した〈そう思う〉が59.1%となっている。

図表2-4 データの利活用による暮らしへの効果や影響（性/年齢別）  
【生活が便利になる】



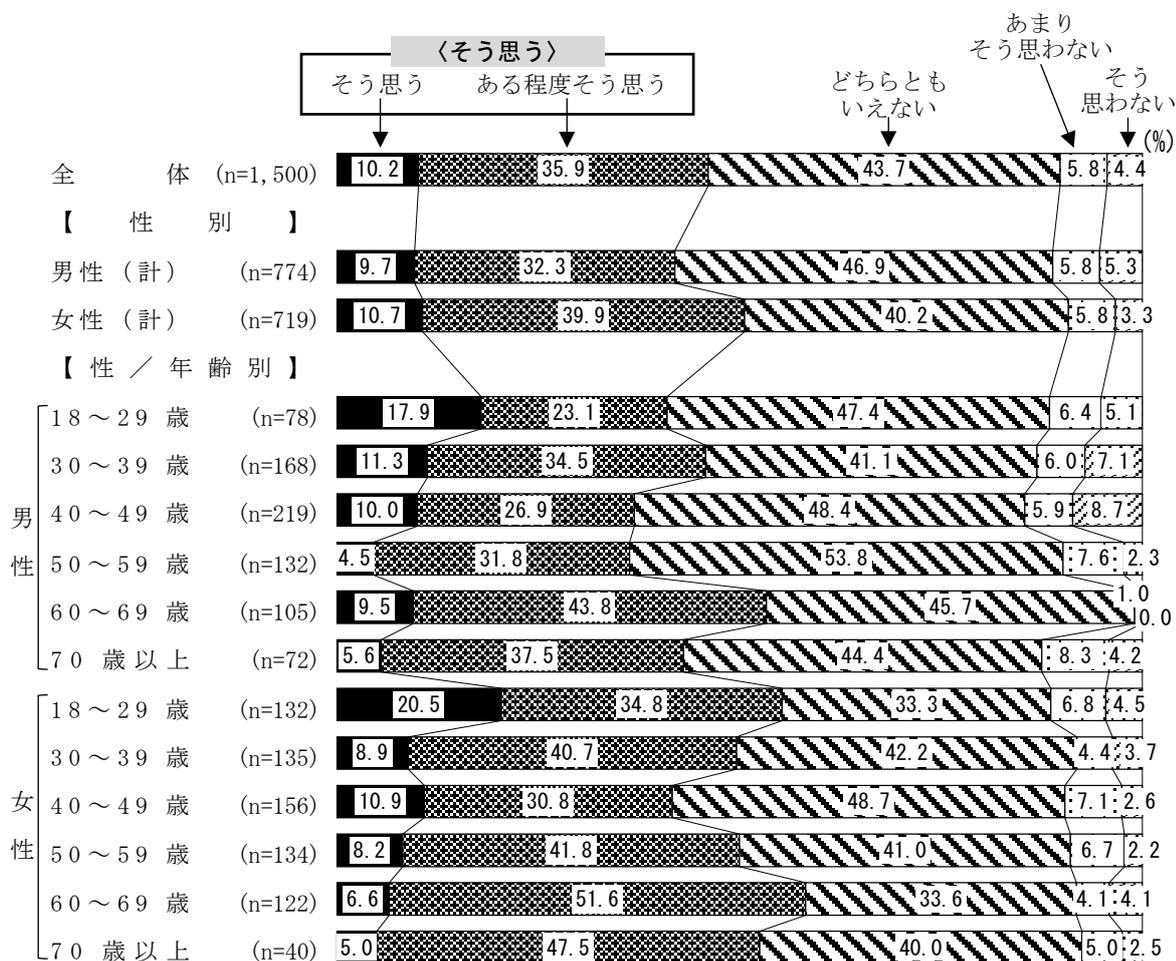
性/年齢別では、男性の60~69歳、女性のすべての年代で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した<そう思う>が7割を超えている。

図表2-5 データの利活用による暮らしへの効果や影響 (性/年齢別)  
【地域の課題解決につながる】



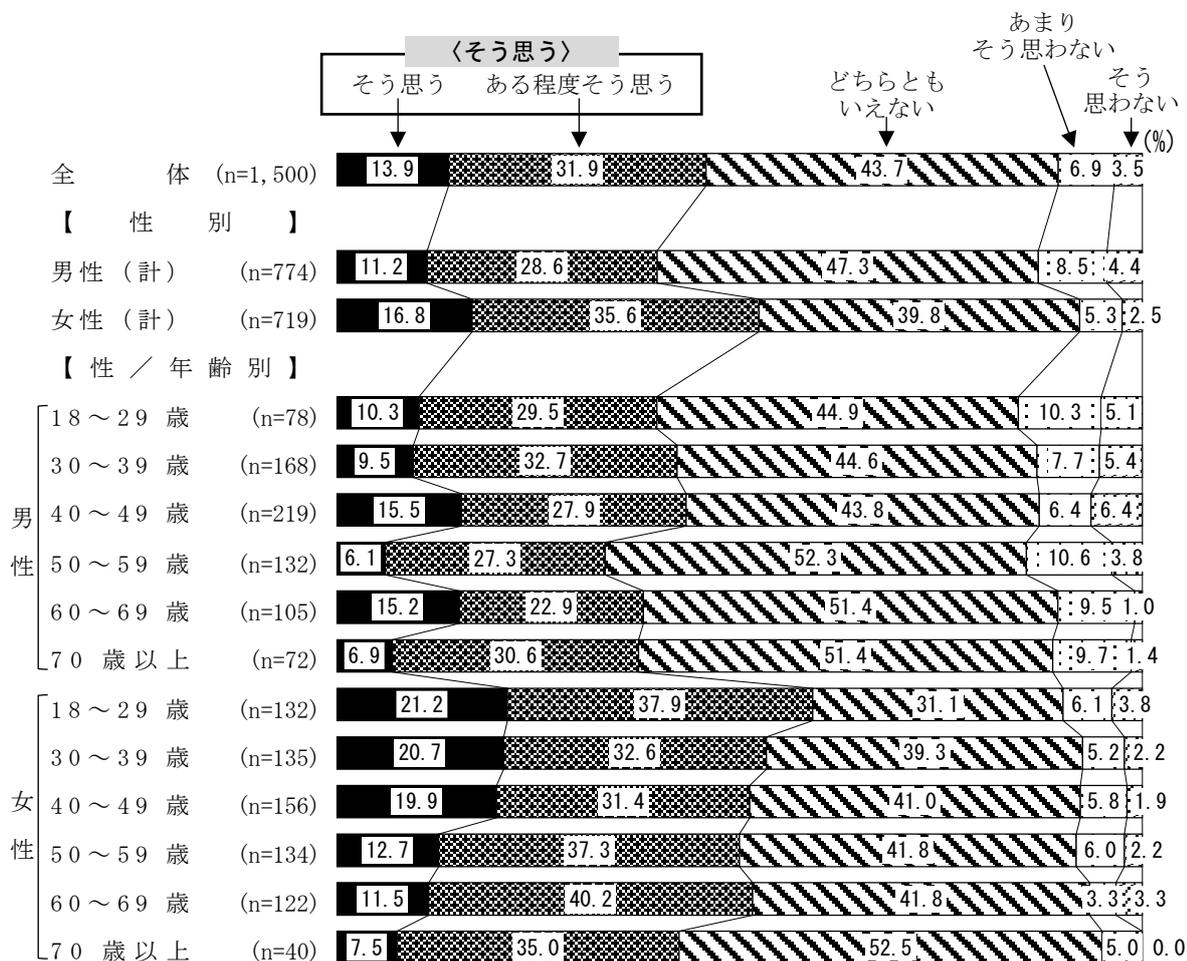
性/年齢別では、女性の70歳以上で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計したくそう思う>が6割を超え、女性の39歳以下の年代と60~69歳でも6割近くとなっている。

図表2-6 データの利活用による暮らしへの効果や影響 (性/年齢別)  
【地域経済が活性化する】



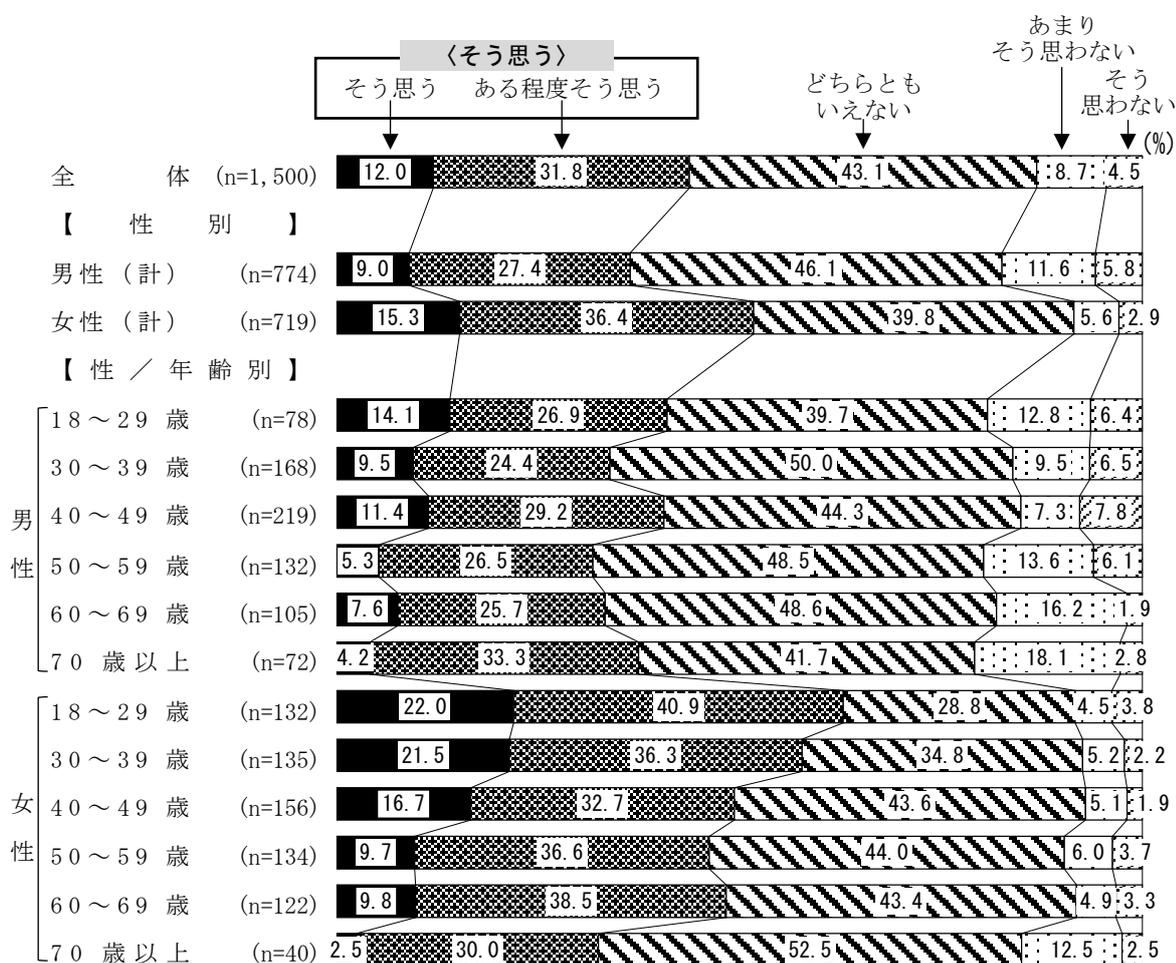
性/年齢別では、男性の60～69歳、女性の18～29歳と50歳以上の年代で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した＜そう思う＞が5割を超えている。

図表2-7 データの利活用による暮らしへの効果や影響 (性/年齢別)  
【個人情報の漏えいやプライバシー侵害が生じる】



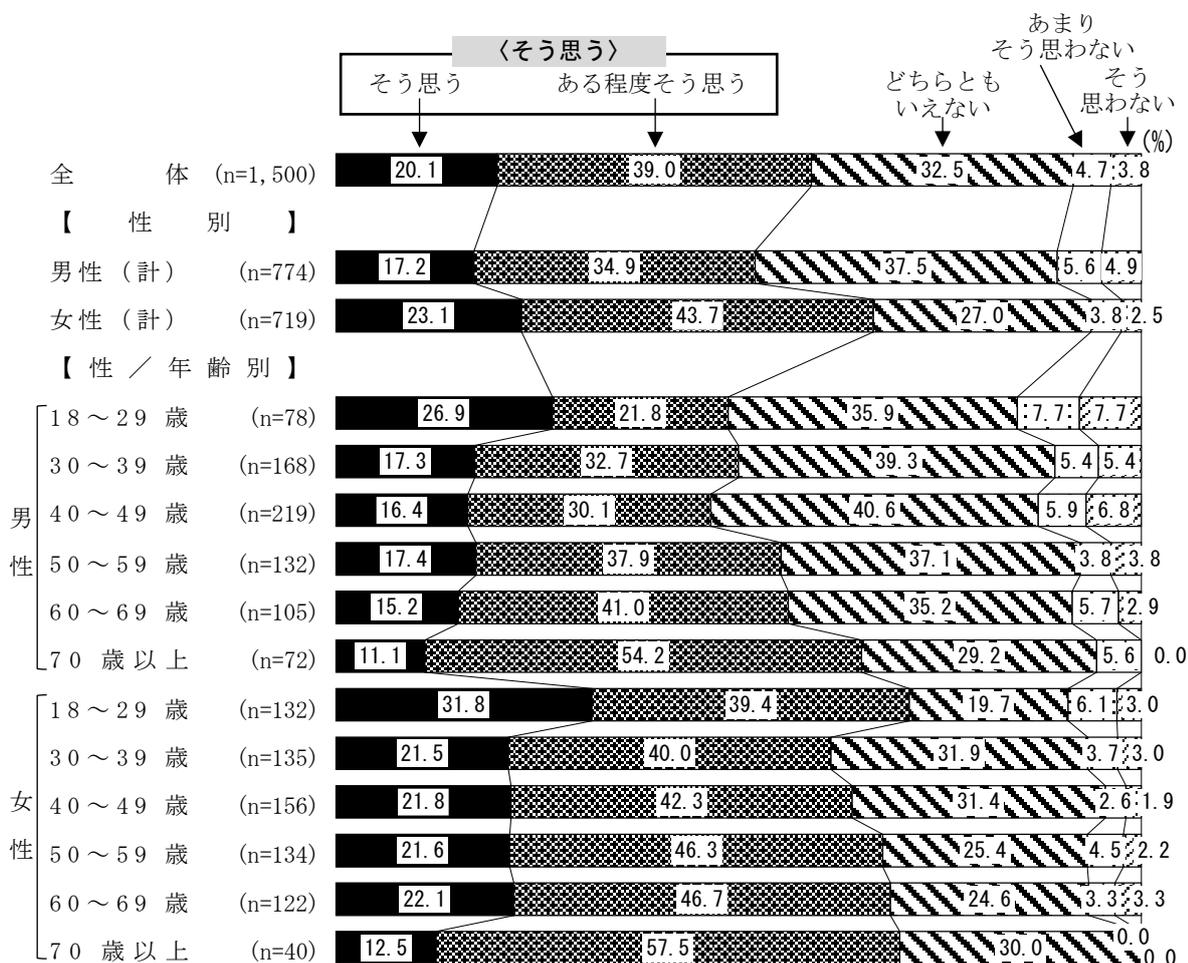
性/年齢別では、女性の方が「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した<そう思う>割合が10ポイント以上高く、女性では70歳以上を除くすべての年代で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した<そう思う>が5割を超えている。

図表2-8 データの利活用による暮らしへの効果や影響（性／年齢別）  
【情報が氾濫し、どの情報を信じてよいかわからなくなる】



性／年齢別では、女性の方が「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した＜そう思う＞割合が10ポイント以上高く、特に女性の18～29歳と30～39歳では「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した＜そう思う＞が6割前後となっている。

図表2-9 データの利活用による暮らしへの効果や影響 (性/年齢別)  
【パソコン、インターネット等の情報技術を使いこなせる人とそうでない人に格差が生じる】



性/年齢別では、女性の方が「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した<そう思う>割合が10ポイント以上高い。また、男性の70歳以上と女性のすべての年代で「そう思う」と「ある程度そう思う」を合計した<そう思う>が6割を超えている。